

平成26年第4回江差町議会臨時会資料

資料 1 : 運動公園多目的広場散水用給水管修繕関係【承認第 2 号関係】	 P	1
資料 2 : 北限のヒバの森づくり推進事業関係【議案第 1 号関係】	 P	2
資料 3 : ナマコ養殖育成施設整備事業関係【議案第 1 号関係】	 P	3
資料 4 : 活魚バックシステム導入推進事業関係【議案第 1 号関係】	 P	4
資料 5 : 新幹線開業効果拡大プロジェクト関係【議案第 1 号関係】	 P	5
資料 6 : かもめ島海上遊歩道改修工事関係【議案第 1 号関係】	 P	6
資料 7 : 姥神土蔵調査事業関係【議案第 1 号関係】	 P	7

運動公園多目的広場散水用給水管修繕工事 概要

資料 1

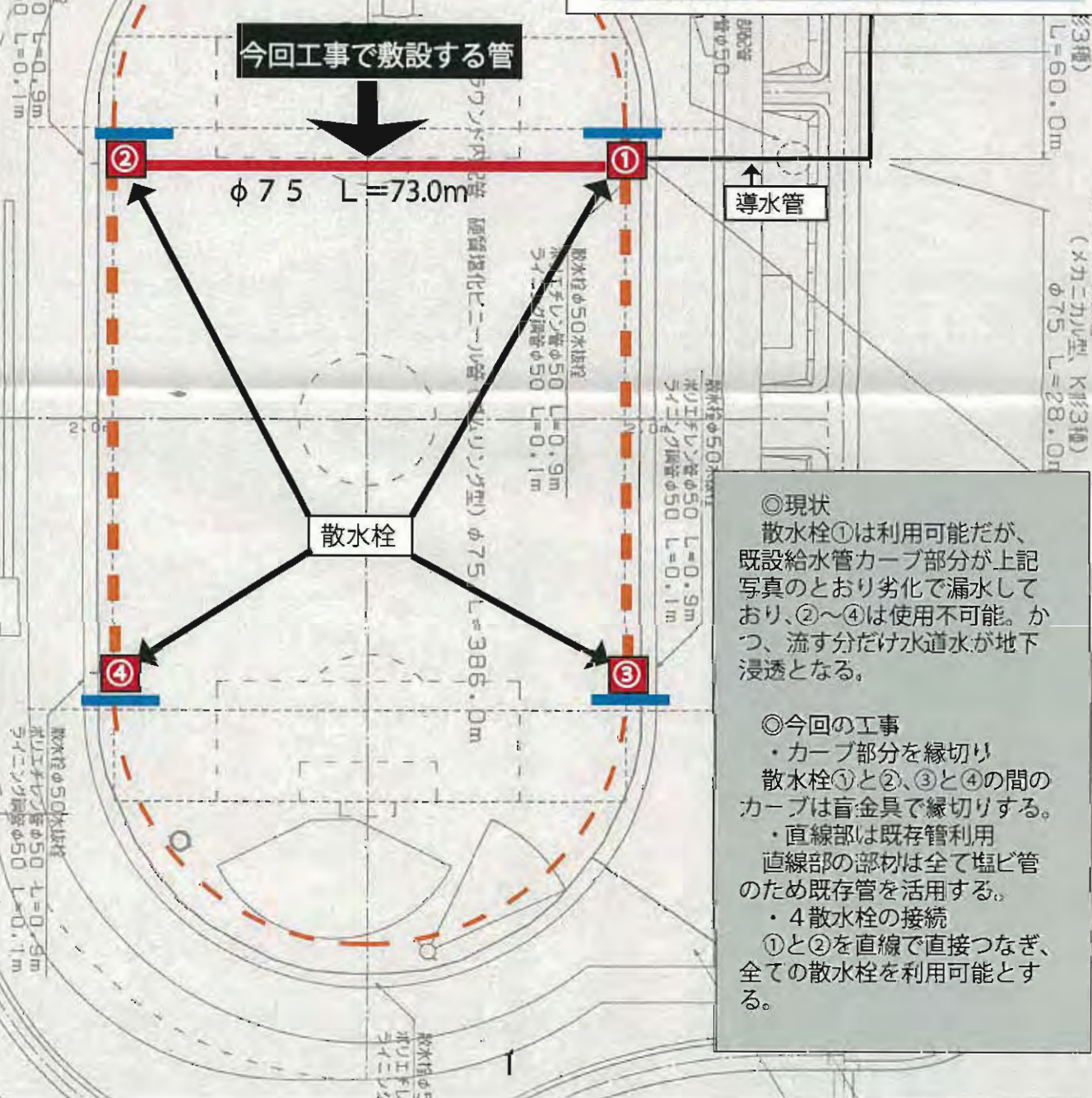
既設給水管

陸上走路コース内側に沿って給水管が敷設されている。

現状は、コーナーの管をカーブに沿って接合している鉄製部品が劣化し漏水。



今回工事で敷設する管



◎現状

散水栓①は利用可能だが、既設給水管カーブ部分が上記写真のとおり劣化で漏水しており、②～④は使用不可能。かつ、流す分だけ水道水が地下浸透となる。

◎今回の工事

- ・カーブ部分を縁切り
散水栓①と②、③と④の間のカーブは盲金具で縁切りする。
- ・直線部は既存管利用
直線部の部材は全て塩ビ管のため既存管を活用する。
- ・4散水栓の接続
①と②を直線で直接つなぎ、全ての散水栓を利用可能とする。

北限のヒバの森づくり推進事業の概要

＜所管課：農林水産課＞

補正予算要求額：1,597千円

委託先：檜山南部森林組合

【事業費】1,597千円)

【財源構成】道補助金 700千円（事業費の1/2以内）

一般財源 897千円

事業の概要

本町は、ヒバの北限の地であり、古くからニシンとヒノキアスナロ（ヒバ）材の交易により繁栄をした町であります。過去からの伐採等によりヒバが減少している状況であります。

このため、十数年前からヒバ山の再生を期して、町民有志や団体等がこぞって町民の森へヒバの植栽を行ってきたところであり、現在、8,000本以上が植栽されています。

当該事業では、この間、ヒバの持つ特性を活かした新たな商品開発を行い、地域の活性化を図ることを目的に試験的にではあるが、消臭剤や抗菌剤の試作品の開発が行なわれてきた。一方で、ヒバ山の管理も重要であり、大木となるまでには2～3百年かかるとも言われており、日頃からの当該地の下刈り等をしっかりと行ってきたところであります。

最終年度の本年は、関係機関と連携を図り、ヒバを活用した商品開発と商品化までの道筋をつけるとともに、ヒバ山の管理にも徹底を期すものであります。

主な取組

- ① 北限のヒバを活用した商品開発（抗菌・消臭・入浴剤等）
- ② ヒバの補植・天然林調査・ヒバ挿木用床づくり等



ナマコ養殖育成施設整備事業の概要

<所管課：農林水産課>

<間接補助事業>

補正予算要求額：4,550千円

事業主体：江差ナマコ養殖研究会

【事業費】8,100千円)

【財源構成】道補助金 3,800千円（事業費の1/2以内）

町補助金 750千円（定額補助）

自主財源 3,550千円

事業の概要

近年の中国経済の繁栄を背景にナマコの需要が増え、単価の急激な上昇から江差地区においても、浅海漁業経営者を中心に新規着業者が増加し、平成17年度の漁獲では、漁獲量7.3トン、漁獲高1,466万円であったが、平成22年度の漁獲においては、漁獲量47.5トン、漁獲高27,245万円を記録し、漁家の経営に大きく貢献している。

このような中、江差地区では、新たな取り組みとして、つくり育てる「養殖」に着目し、若手漁業者を中心にナマコ養殖研究会を立ち上げ、ナマコ養殖試験に取り組む体制を整えたところである。

しかし、ナマコについては、種苗生産技術は確立されているものの、養殖技術の確立には至っておらず、各地区が注目する取り組みとして、これらの成果が期待されている。

このような背景をもとに、今後、これらの養殖技術の確立を図ることを目的に浮沈式ナマコ養殖生簀を整備し、養殖試験に取り組むものである。

主な取組

- ① 浮沈式ナマコ養殖生簀の購入 3基
- ② ナマコ種苗の購入 45,000個（補助対象外）



活魚パックシステム導入推進事業の概要

<所管課：農林水産課>

<間接補助事業>

補正予算要求額：3,800千円

事業主体：江差動力船船主組合

【事業費】4,100千円)

【財源構成】道補助金 1,900千円（事業費の1/2以内）

町補助金 1,900千円（事業費の1/2以内）

自主財源 300千円

事業の概要

近年のスケソウ漁の不漁やエゾバカガイの資源枯渇による5年間の禁漁、更に追い打ちをかけるように燃料の高騰等、漁業者を取り巻く環境は厳しさを増している。

このような中、漁業者の間では、前浜沖にて漁獲される少量多品種の魚類の高付加価値化やブランド化を目指す動きが活発化している。

このため、他地域との差別化や小ロットでも一定の価格を確保できる活魚に活路を見出し、今般、これらのシステムを導入し、新たな販路の拡大と安定した価格での出荷の確保等、漁家経営の安定化と地域ブランドの確立を目指すものである。

主な取組

- ① 活魚パックシステムの購入 1基
- ② 活魚パック袋の購入 5,000枚（7リットル用）
- ③ PH調整液の購入 1本（500リットル用）
- ④ 人工海水・PH調整液セットの購入 1本（10リットル用）



新幹線開業効果拡大プロジェクトの概要

【事業費】 6,300千円

【助成額】 3,100千円（事業費の1/2）

＜追分商工観光課＞

地域づくり総合交付金制度の概要

北海道地域振興条例に基づき地域の創意と主体性に基づく地域の特性や優位性を生かした取組の推進を図るため、市町村等が実施する地域課題の解決や地域活性化として取り組む各種の事業について、予算の範囲内において交付金を交付する制度である。

ソフト系事業 上限 500 万円（下限 50 万円）

助成額の算定 事業費の 1/2 以内

事業の目的

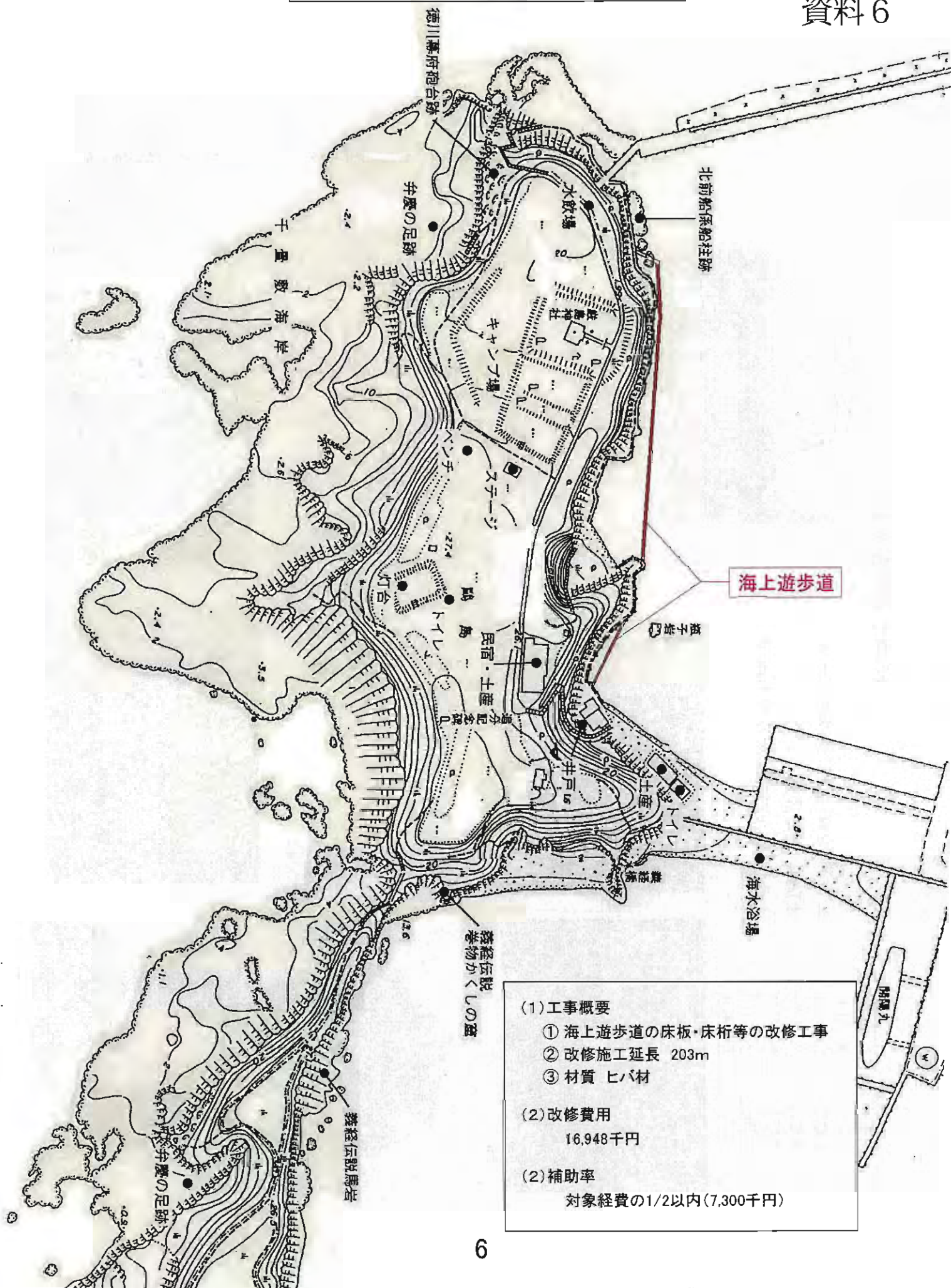
2016 年の北海道新幹線開業を控え、地域で開業効果をしっかりと享受するためには、本町の豊富な観光資源と受け入れ体制を含めた基盤整備が喫緊の課題である。このため、官民一体となったオール江差での取組を加速させることを目的に各種の事業を展開する。

事業の概要

本町を訪れる観光客に対し、街歩きツールとして観光フリーペーパーの作製や街歩きガイドの養成を図る。また、海の駅開陽丸（かもめ島）周辺への誘導対策としてサイン看板の設置を行い、本町への誘客対策や滞在時間延長等の仕組みづくりを実施する。更に、ゆるキャラ「しげっち」の衣装を各種のイベントへ対応可能とするよう整備する。

主な取組

- ① 「見る・食べる・飲む・買う・泊まる」をカテゴリとした観光フリーペーパーの作製（5 万部）
- ② 観光案内表示板の整備（かもめ島入り口付近）
- ③ ゆるキャラ「しげっち」に関する消耗品等の整備（三大まつり別の半纏やタスキ等）
- ④ 街なか（観光）ガイド養成事業（会員確保対策・視察研修事業等）



姥神土蔵調査事業

蔵番号	述べ床面積
土蔵①	42.61㎡
土蔵②	109.30㎡
土蔵③	72.45㎡
土蔵④	92.74㎡
通路	77.31㎡
合計	394.41㎡

- ・土蔵群 地質及び基礎調査 一式
- ・土蔵群 現地調査 一式
- ・土蔵群 構造計算・改修案の検討 一式



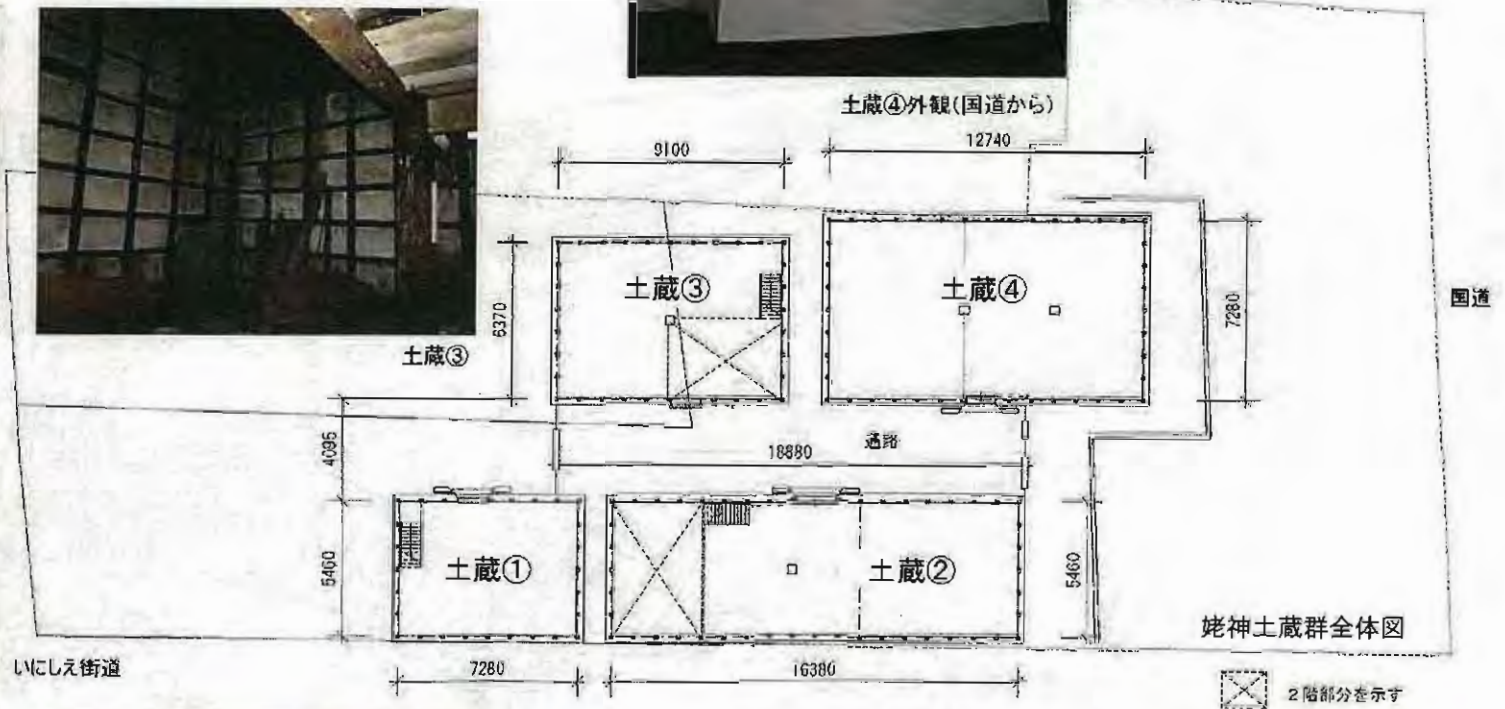
土蔵④外観(国道から)



通路



土蔵③



土蔵①



土蔵②



土蔵④



土蔵②外観(国道から)